

## 物語・文学教材を新聞に書き換える学習

—— 世界でいちばんやかましい音（エルキン） ——

はじめに

物語・文学の授業では、登場人物の「気持ち・心情」を問う学習が多くおこなわれている。この学習は、作品を深く読み、考え、話し合えるよさがあり、今後も続けられるべき方法であると考ええる。

しかし、作品によっては「気持ち・心情」を問うのには適さない教材がある。例えば、本論であつかう『世界でいちばんやかましい音』（ベンジャミン・エルキン）である。

物語・文学の授業は「気持ち・心情」を問う以外の学習方法を工夫する必要があると考える。そこで、本論では「文学・物語教材」を「資料」として使い、「新聞（他の文字媒体）」に書き換えた実践を紹介する。

岡 卓志

平成二十三年奥出雲町立馬木小学校五年生十五名におこなった実践と、平成二十五年同校五年生十二名に行った実践である。

### 1 あらすじと「新聞」を選択した理由

『世界でいちばんやかましい音』は、『新しい国語五上』（東京書籍）に平成二十三年度から採用された。あらすじは以下の通りである。

ガヤガヤの都は世界でいちばんやかましいところである。王子のギヤオギヤオは、やかましい音が大好きである。王子の誕生日が一月半にせまったある日、王様が王子にプレゼントは何がいいかと聞いた。王子は世界中の人が一斉に「ワア」とさけぶことを望んだ

(後に「ガヤガヤ王子、お誕生日おめでとう！」とさけぶに決まる)。歴史に名を残せると考えた王様は、王子の意見に賛同し世界中の人がさけぶようにした。

ところが、ある町のおくさんは、自分だけ黙ってやかましい音を聞いてみたいとだんなさんに話した。すると、この話が広まり、世界中の人たちが自分だけは黙って聞いてみたい気持ちになった。

そして、誕生日当日。大きな声でさけぶどころか世界中が静かになってしまった。ところが、王子は小鳥の歌や小川の水音などを聞いて大喜びをしていた。それ以来、ガヤガヤは世界で一番静かな町になった。

読んで楽しい物語であるが、登場人物の気持ちや心情を深く追求するのには適さないと判断した。そこで、本作品を「新聞」を創作するための「資料」としてあつかう学習を行った。

「新聞」を選んだ理由は、本作品の場合、自然な文字媒体だと判断したからである。ガヤガヤの「都」ならば、新聞が存在するはずである。世界でいちばんやかましいガヤガヤが静かになったということは国家的な大事件であり、翌日の新聞の第一面を飾るはずだからである<sup>1)</sup>。

## 2 学習の流れを示す

『世界でいちばんやかましい音』を読んだ後、新聞の作成をさせた。しかし、社会科学見学などで学習したことを新聞の形式でまとめる経験はあっても、「物語」から「新聞」を作る体験はない。どのようにまとめるのか分らないと判断した。

そこで、学習の見通しがもてるように「学習の流れ」を示した。二十三年度の「学習の流れ」を中心にあげる。

### 学習の流れ

『世界でいちばんやかましい音』新聞づくり

(1) プロファイルシート作り

登場人物がどのような「性格」なのか分析をする。

○対象人物 王子 王様

・できあがったプロファイルシートは友達に見てもらおう。

・友達のプロファイルシートの内容で参考になるものは、自分の考えとして取り入れてもよい。ただし、誰からもらったのか明記をする。

(2) 「王子」「王様」にインタビューをする。

① 「王子」「王様」への質問を考える。

・聞いてみたいことを考え、ノートに書く。

・自分が「王子」「王様」だったら、どう答える

か考える。

② 「王子」「王様」に記者会見（インタビュー）を行う。

・ 「王子」（「王様」）の記者会見の場合

○ 五人が「王子」（「王様」）になってインタビューに答える。

○ のこり十名がインタビューになって王子にインタビューをする。

○ 「プロフィールシート」を作成した時と同様に参考となる考えをメモする。

(3) 新聞の分析

・ 実際の新聞の「見出し・リード・本文」を分析

(4) 「誕生日の次の日」の新聞の第二面をつくる

・ ガヤガヤの都にあるような新聞名

・ 王子、王様のインタビューをのせる。

・ 記事本文は、物語を要約してのせる。

・ 写真の代わりに自分がかいた絵をのせる。

(5) できた新聞をお互いに読み合い、評価を書く。  
・ 書かれた「評価」に対しての感想も書く。

平成二十五年度で追加した取り組み

(6) 「人物紹介」欄を書く

① 「おくさん」の人物像を分析

② 実際の新聞「人物紹介」欄の分析

「学習の流れ」を示したことで、子どもたちは学習の見通しをもち、自力で学習を進めていた。本論では、この「学習の流れ」にしたがって説明をする。

3 新聞を書くための材料を集める(1)

― 登場人物の分析をする ―

記事をつくる場合、記者はインタビューなどの取材をする。本学習でも、登場人物にインタビューをする場面を設定した。しかし、「王子」「王様」は、架空の人物なのでインタビューはできない。そこで、子どもに登場人物になりきらせた。王子なら「王子」となりきってインタビューに答えさせた<sup>2)</sup>。

登場人物である王子になりきるためには、王子の性格等を十分に理解をしておかなければならない。そこで、登場人物の性格分析をさせた。

個人作業で本文を何回も読ませ、分析結果をワークシート「登場人物のプロファイルシート」に書かせた。

子どもたちは、テキストを読んでシートを書き、書いては読むといった活動をくり返してた。

C1の「プロフィールシート」をあげる。

### C1が作成した「王子のプロファイルシート」

<p>【王子】は○○○だよ</p> <p>はじめての小鳥の歌をきいた時とてもはしゃいだ。少しわがまま。アイディアがすごい！。</p> <p>ガヤガヤの町のだれよりもうるさい。たいていの大人よりうるさくできる。やかましい音が聞きたい。</p> <p>そう考えた理由</p>			
1	2	3	4
はじめて小鳥、静けさと落ち着きを知ったのです。	それも前にきいたことがあるよ。それだけじゃ足りないよ。	大声でわめきちらしながら、おなべとやかんをぶつけ合わせ、おまけにヒューッと口笛を鳴らすことができました。	
<p>根拠となる文</p>			
<p>・ はじめて静かになった時とても喜んだ。</p> <p>・ 王様がアイディアを出しても喜んでいしなかった。</p> <p>・ 大声でわめきちらしながらなべやかんを口笛で吹けるから。</p> <p>・ 王様が言っても前に聞いたことがある。</p> <p>・ たいていの大人よりうるさい才能がある。天才かも？</p> <p>・ アイディアがすごい。</p>			

### C1が作成した「王様のプロフィールシート」

<p>【王様】は○○○だよ</p> <p>王様はとても優しいけどしつこいとイライラする。いろんなアイディアを出して王子を喜ばせようとした。応じたのは自分のため（歴史に名を残す）。</p> <p>そう考えた理由</p>			
1	2	3	4
王様は、いろいろなアイディアを出した。	「その日は学校」「軍隊隊」		
<p>根拠となる文</p>			
<p>・ 王様は優しいけどギョギョオオがしつこいからイライラした。</p> <p>・ 「わが近衛軍隊に…」「わが町の警官…」など、いろいろなアイディアを出した。</p> <p>・ ポスターをはったりしてくれた。</p>			

※太字はインタビュ어도もらった他者の考え

個人作業で「プロフィールシート」を書かせた後、二人一組で、「プロフィールシート」の説明をさせた。説明の際には、説得力をもたせるため「王様の人物像は○○で、理由は□□。教科書に△△と書いてある。」と言うようにした。

多くの意見に触れられるように二人一組の組みあわせを何回も変えた。また、説明を受けて参考になると思った考えや引用などは自分の考えとして積極的に取り入れるようにした。こうすることで個人の分析に固まることなく、人物像をふくらませることができた。

例えば、C1が作成した「王様のプロフィールシート」をみる。太字になっている部分は、C1が二人一組で説明を受けた際に取り入れたものである。

「王様」の性格について「いろんなアイディアを出して王子を喜ばせようとした」と書いている。ところが、最初はその理由が書けなかった。多くの説明をうけたことで「『わが近衛軍隊に…』『わが町の警官…』など、いろいろなアイディアを出した。」「ポスターをはったりしてくれた」など理由を見つけることができた。

分析をより充実させるために、説明（「対話」の一種ととらえる）は有効な手段である。

#### 4 新聞を書くための材料を集める(2)

―「プロファイルシート」をもとに

インタビューをする―

「プロファイルシート」の作成後、「王子」「王様」のインタビューをおこなった。

インタビューの際に「王子(王様)」役には、以下の指導をした。想像を言ってもよいが「聞き手(インタビュアー)」がなるほどと思うような回答をする。そして、想像した根拠がテキストのどこにあるのか言えるようにする。

ここでもプロファイルシート作成の時と同様、参考になる質問や答えはメモをして書きため、自分の考えに入れてもよいことにした。後でメモを読んでみて必要のないものはカットすればいいとも指導した。

なお、二十三年度と二十五年では、インタビューの方法を変えている。

二十三年度は、「学習の流れ」で示したように五人の「王子(あるいは、王様)」役、その他の子どもが「聞き手(インタビュアー)」役として質問をする。記者会見のような方法である。一斉授業の形態のできるので指導者はインタビューの内容が評価できる。また、五人の「王子」の意見が異なれば論争となり、解釈が深まる可能性がある。しかし、五人の「王子」が同様の回答をすると内容が深まらない。また、一斉授業で

は、発言する子どもと発言しない子どもに分かれやすい。二十五年度には、子どもを二人一組にし、どちらかが「王子(あるいは、王様)」役、もう一方が「聞き手(インタビュアー)」役とした。五分間インタビューしたのち役割を交代する。これが終わると二人一組の相手を代えさせた。「王子」や「聞き手」のいずれの役にもなれ、自分の考えや解釈を述べたり、相手の話を聞いたりできる。二人で話さなければならぬ状態になるので、どの子も授業に参加ができる。しかし、個別に行われるので、指導者がその場で評価ができない(子どもが書いたメモなどで評価をしなければならぬ)。

本論では、平成二十三年度のインタビュー「記者会見」の一部を紹介する<sup>2)</sup>。

#### 二十三年度の「記者会見」の様子

○「王子」の記者会見の一部

記者① 王子の誕生日はどうでしたか。

王子① よかよか。

記者① どうして。

王子① 静かになって、初めてでびっくりした。

でも、鳥の鳴き声が聞こえて。

記者② もし、王子の願い(世界でいちばん大きな音を聞く)がなかったらどうでしたか。

王子① 何ともおもわなかった。

王子② それは、それでいい。でも、はじめて静かな音を聞いたので気が変わった。(静かな音で)満足している。

王子③ どっちでもいい。やかましくてもいいし、静かな音でもいい。でも、大きな音も聞いてみたかった。

王子③ どっちでもいい。やかましくてもいいし、静かな音でもいい。でも、大きな音も聞いてみたかった。

「王子」役の意見は大きく分けて二種類に大別できる。王子②のように「はじめて静かな音を聞いたので気が変わった(静かな音で)満足している」と静かになったことを受け入れる王子像。一方、王子③のように「どっちでもいい。やかましくてもいいし、静かな音でもいい。でも、大きな音も聞いてみたかった。」と静かでもやかましくてもどちらでもいいが、世界でいちばんやかましい音は聞いてみたかったという王子像に分かれた。

このように「王子像」に揺れが生じるのには理由がある。『世界でいちばんやかましい音』のテキストには、「静けさと落ち着き」を「すっきり気に入りまし」とは書いてある。最後に王子自身がやかましい音をやはり聞きたかったのかは明確に書かれていない。

これは、王子本人でないと分からないため、読者は文脈から想像するしかない。ここから、解釈に微妙な揺れが生じたと考えられる。なお、やかましい都の方が

絶対によかったという王子像をえがいた子どもは、二十三年度・二十五年齢ともになかった。これは、ガヤガヤの都が静かになったのに、王子だけがやかましい音を好んだというのは不自然だと解釈したと考えられる。

登場人物にインタビューをするという方法は、物語の空所を考える有効な手段の一つである。

次に、王子の記者会見後、C2の「王子のインタビューメモ」と、そのメモを元に書いた「王子のインタビュー記事の下書き」をあげる。

C2が書いた「王子のインタビューメモ」

ギャオギャオ王子に質問

① たん生日全くのちんもくになってどう思ったか

C3 びっくりした。

C4 なぜみんなさけばなかったんだらう。

② やかましいのと静かなのはどっちがいいか

C4 やかましいが4 静かが6

C7 静かな方がいい。

③ 何で世界でいちばんやかましい音が聞きたかったのか

C4 聞いたことある音しか聞いたことなかった。

C5 好きだから。

④ 王様のことをどう思っているか

C6 いい人。

C7 いい親。

⑤人々が何も言わなかったけどどう思いますか

C4誕生日が失敗したかと思った。

C7おこっている。恨んでいる。

⑥今度のたん生日は何がほしいですか

C4もつと静かな音。

C7特れない。何でもいい。

⑦ギョオギョオという自分の名前はどうですか

C4昔はやかましかつたからいいけど今は、静かだから名前を変えたい。

※C4～C7は、発言した子どもの名前

## C2「王子」のインタビュー記事の下書き

ギョオギョオ王子は、「世界でいちばんやかましい音が聞こえなくてびっくりした。みんな何もいわないから、たん生日が失敗したと思った。」とこたえていた。なぜ、世界でいちばんやかましい音があったのかというしつもんでは「毎日、聞いたことがある音しかきこえなくてつまらなかつたから。」といつている。世界でいちばんやかましい音はしつぱいしたけど、ギョオギョオは静かになっていい言っていました。プレゼントを用意してくれた王様のことは「いい親」と言っている。昨日のたん生日で「6才になった」と元気に答えていました。

「王子のインタビュメモ」の中に「⑤人々が何も

言わなかったけどどう思いますか」という質問に対して、C7が「おこっている。恨んでいる。」と答えている。ところが、C7もやかましいより「静かな方がいい」と答えている。一方でC4は「やかましいが4静かが6」と答えている。子どもたちの「王子像」に微妙なずれがある。それをC2が受けとめ、記事を書く際に取捨選択をしてる。

また、「⑦ギョオギョオという自分の名前はどうですか」という質問に対して、C4が「昔はやかましかつたからいいけど今は、静かだから名前を変えたい。」と、王子の改名問題まで発展している。C2は記事に入れないが、このような文章が入ると、王子がどこまで静けさをもとめているのか分かり、内容が格段におもしろくなったであろう。

なお、「王様」についても同様の学習をさせた<sup>(4)</sup>

## 5 新聞の「第一面」を分析する

次に、紙面を作成するために、新聞の「構成」や「書き方」について分析をさせた。

まず、全員に新聞(同一、同日)の第一面の分析をさせた<sup>(4)</sup>。分析の際に「日本語で書いてある」のようにあたりまえだと思うことでもあげるように指導した。重要な情報を見落とさないためである。

子どもたちが見つけた新聞の分析

- ・新聞名が書いてある。
  - ・「山陰中央新報」のとなりに大きい題名みたいなものがある。↓「見出し」
  - ・初めて発行された日（明治何年）。何号か。
  - ・年が書いてある。
  - ・日付・発行所が必ずある。
  - ・天気がある（きょう・あす）
  - ・広告がある。
  - ・字が書いてある。
  - ・一面にいろいろな記事がある（五つくらい）。
  - ・段が書いてある（短く。ここまでという線が書いてある）。
  - ・「今日の紙面」が書いてある。
  - ・関連記事がどこにかいてあるか書いてある。
  - ・ページ数がある。
  - ・見出しがある。小さな題名がある。
  - ・写真がある（必ず一枚はある。場所が書いてある。地元のことを写真付き）。
- みんなが気がつかなかったこと
- ・第一面のいちばん下に「コラム」がある

発表の際には新聞の構成を理解するため、実際の新聞でどこの部分に当たるのかを指すなどの確認をした。

この新聞の分析は「ガヤガヤの新聞を書く」ためだ

けをねらっていない。「新聞の読み方」の学習にもなっている。新聞の構成（あるいは約束事）を理解しておくくと、新聞を読むレベルが格段にあがる。今後生活していく上で「新聞から情報を得る」ための基礎となる。

## 6 分析を元に新聞をつくる

以上の学習をさせた上で「ガヤガヤの新聞」の作成に入った。

二十三年度と二十五年度で作成された「ガヤガヤの新聞」をそれぞれ一例ずつあげる。

記事を書くにあたって、物語の要約等の指導は特に行わなかった。新聞を作成するまでに何回もテキストも読んでいたので、どの子も抵抗なく書いていた。



# ガヤガヤ新報

8月22日  
相模

## 王子の誕生日

自然の音をきいて喜んで

八月二十一日、ガヤガヤの町で、王子の誕生日が月曜  
日である。王子は世界一の静かである。王子は自然  
の音をきいて喜んで

### 静まり返たガヤガヤの町

王子は王様に「考えを出したが王  
生日は世界一や子は全」とくいか  
かましい音が聞さず「世界中の人が  
い」とい。た。廿二にさけんばい  
すると王様は「い」と思て自分の  
いだろう。そ水で考えを言。た。王  
は町の警官、全員様はそ水を実行し  
で朝からばくまで。世界中の人は  
はななましり音で。おはい、考えた  
を鳴らさせたりと言い、王子のた  
と。りろんな人生日をとも業



やかましく鳴く  
ギョギョオオオオオオオ

王子は王様に「考えを出したが王  
生日は世界一や子は全」とくいか  
かましい音が聞さず「世界中の人が  
い」とい。た。廿二にさけんばい  
すると王様は「い」と思て自分の  
いだろう。そ水で考えを言。た。王  
は町の警官、全員様はそ水を実行し  
で朝からばくまで。世界中の人は  
はななましり音で。おはい、考えた  
を鳴らさせたりと言い、王子のた  
と。りろんな人生日をとも業

## ②二十五年度のC9「ガヤガヤの新聞」

ガヤガヤ新聞  
新刊月30日  
休産

ガヤガヤで初めて静かになり

王子のたん生目までいろいろあつた。そしてたん生日加きて王子のおくり物は失敗。そして王子は喜こんだ。今は勉強記者。

(1) 2014年(平成26年)6月30日(木曜日)

ガヤガヤ新聞  
たん生目までいろいろあつた。そしてたん生日加きて王子のおくり物は失敗。そして王子は喜こんだ。今は勉強記者。

王様インタビュー  
王子様インタビュー  
王子様は、お母さまと一緒にお勉強しています。お勉強は楽しいですよ。お勉強は、お母さまと一緒に行きます。お勉強は、お母さまと一緒に行きます。

天気予報  
今日の天気は晴れです。明日は曇りです。後日は雨が降る可能性があります。ご注意ください。

## 7 できあがった新聞を相互評価する

できあがった新聞を読みあい、評価をさせた。二十三年度のC8「ガヤガヤの新聞」についての相互評価をあげる。

C8の新聞に対する子どもの評価

C10リードが小さく、本文は大きく書いてあって、本文がめだつ書き方がしてあっていいと思う。

C11教科書に書いてないことが書いてあってすごい。なぜなら、教科書をそんなに写してないから。

C12いろいろな事をくわしくしてみじかくしてすごい。なぜならとても多い出来事を短くしているから。例えば、王様の言った事をすべて書かずにいるから。

## 「評価」に対する

C8(新聞の作成者)の感想

C8「リードを小さくして、本文がわかりやすかった。」と書いてくれた人が何人もいてうれしかった。教科書にはない事(想像)を書いたらそこをほめてくれたのでとても良かった。「字がわかりやすい」といつてくれる人もいたので、うれしかったです。

評価を見ると「構成」や「書き方」という視点をもった評価をしている。事前に新聞を分析した成果である。分析が新聞を書くためだけでなく、評価をする時の視点にもなっている。ただし、評価の具体例に乏しいので、もっと例(あるいは新聞の引用)をさせる必要があった。

## 8 二十三年度と二十五年年度の「新聞」の比較

### ―実践の改善―

二十三年度・二十五年年度の「ガヤガヤの新聞」を比べてみる。

両方とも、物語の内容を新聞風の文体で要約をし、「王子」や「王様」のインタビュ記事を書いている。二十三年度では、「住民の声」まで書いてある。例えば、「住民はというと2つの意見があった」とし、「王子が喜んでいたら良かったです」や「つまらなかつたです。」「もし世界一やかましい音を聞いても喜んだ思う」などと町に出て取材をしたようにうまく書いている。

ところが、二十五年度の方が充実した新聞に見える。それには二十三年度の実践をふまえ、二十五年度に改善したことと関連している。

### 改善点① 遊びの要素

新聞には天気予報や広告などがあるので、二十三年度も広告を書かせた。しかし、記事の内容を重視して書くように指導したため、広告等が少なくなってしまった。その結果、見た目の楽しさがなくなってしまった。

そこで、二十五年度の実践は、広告や天気予報など「遊びの要素」を入れるように指導した。例えば、天気予報欄の「ゴロゴロ市」「ギラギラ市」などである。これらは「ガヤガヤ」を踏まえたからこその表現である。

### 改善点② 「人物紹介」欄の導入

もう一つは「人物紹介」欄の導入である。二十三年度では、黙って聞こうとした「おくさん」については、記事のなかで軽く紹介する程度にとどまっていた。

ところが、この「おくさん」こそが、世界中を静かにさせた原因をつくった重要人物なのである。新聞記者ならばこの「おくさん」にスポットをあて読者に紹介するはずである。子どもに、「静かになった重要人物は」と問うと「おくさん」という答えが返ってきた。そこで、「おくさん」にスポットライトを当てた「人物紹介」の欄を入れた。

人物紹介の実践を紹介する。

### 9 「人物紹介」欄の作成(1)

#### ―プロファイルシート・インタビュ―

「人物紹介」を作成するために、他の登場人物同様に「おくさん」のプロファイルシートを作らせた。この「おくさん」は、テキストに情報が非常に少ない。そこで、名前や年齢など「想像」させることにした。ただし、「友達が読んで、『おくさんは確かにそんな感じの人だと思わせる』こと」を条件にした。情報の少ない「おくさん」の「プロファイルシート」作成することは、困難な作業だったようである。

その後、二人一組になり、一人が「おくさん」、他

方が「記者」になりきって、インタビューをした。  
〔「プロフィールシート」及び「インタビューの様子」は省略〕。

## 10 「人物紹介」欄の作成(2)

―「人物紹介」欄の記事の分析―

「プロフィールシート」作成後、実際の新聞の「人物紹介」欄(三分)を読ませた<sup>(5)</sup>。「新聞の第一面」と同様に、「構成」や「書き方」など個人作業で分析をさせ、全体で発表をさせた。

### 子どもが見つけた「人物紹介」欄の特徴

- ・必ず年齢が書いてある。
- ・08年とか04年とか書いてある。
- ・写真が必ずある。(その人だけ写っている。他の人は一部写っている。)
- ・性格が紹介されている。
- ・その人の言葉(コメント)が「」で紹介されている。
- ・名前が書いてある。
- ・何になったとかが書いてある(一番上に)「見出し」
- ・その人の名前が必ず書いてある。
- ・過去のことも書いてある(中学や高校の時)。

## 11

### 「人物紹介」欄の作成(3)

―子どもが書いた「人物紹介」の記事―

「プロフィールシート」「インタビュー」「人物紹介欄の分析」を踏まえて、記事を書かせた。

### C9 (P24の新聞作成者)の人物紹介

やかましい音を聞きたい。

―シャベリーナさん パクリーオさん―

ある町のシャベリーナさん パクリーオさんはやかましい音を聞こうとした。どうして聞こうとしたのかは、「世界でいちばんやかましい音を聞こうと思った。」からと言い、シャベリーナさんとパクリーオさんは相談したと言う。

そして、友達や近所の人に話たので、王子様のたん生日は失敗してしまいました。自分たちのせいだと思わなかったのかを聞くと「思わなかった。」と答えた。

そして、町はずっと静まりかえったままだという。五十五才。

## C13の人物紹介

わだいの広場

わだいの人 ひそひそさん

とてもやかましい音が聞いてみたいと言ったひそひそさん。「世界でいちばんやかましい音を聞いてみたい気がしたの」と言った。だんなさんのふむふむさんも「おまえの言うとおりだな」とその作せんにさんせいした。ひそひそさんに感想を言ってもらった。「私はあのとき、びつくりしたわ。私が言ったことが世界中に伝わったとは思わなかったもの。」と、言ったそうだ。どちらもガヤガヤの都出身。ひそひそさん57才。ふむふむさん47才。作戦にさんせいしあっているとても仲のいいふうふ。

テキストには、世界中が静かになってしまったことについておくさんがどんな思いをもっていたか書かれていない。物語の空所になる。新聞記事の創作が空所を埋めることになる。

本実践では、静かになってびつくりしたが、おくさん自身が責任を感じていないと解釈した児童がほとんどだった。これはおくさんがほんの軽い気持ちで大きな音を聞いてみたいと言ったと読み取ったからである。もちろん、「王子に対して大変申し訳ない気持ちでいっぱいです。」と解釈をしても問題は無い。

## 12 まとめ

指導書ではこの単元を物語の構成を考える学習にしている<sup>⑧</sup>。本授業は物語の構成を考えながら要約し、新聞を作るという授業に発展させることができたと考えている。

対話をしながら自分で登場人物・作品の解釈を進めていく学習になっている。

また、新聞を創作する活動があったため「読む」「話す・聞く」「書く」の国語科の領域を複合的な組み合わせた授業にすることができた。

おわりに

物語・文学教材には「気持ち・心情」を問うだけではなく、もっと幅広い学習方法が必要である。今回の実践がその一役を担えればと考えている。

なお、今回の授業は、文学作品を大きくざっくりと読み、その解釈を表現するという学習であった。

一方、「物語・文学」の授業で大切だと考えている方法がある。それは「一語」「言葉」が作品のなかでどんな働きをし、解釈にどのような影響をあたえるのかという、言葉にこだわった学習も大切だと考えている。

今後は、一語にこだわった物語・文学の授業も進めていきたいと考えている。

注(1) 文字媒体には、新聞だけでなく、リーフレット、広告、ニュース原稿、ホームページなど数多くある。本作品では、ガヤガヤ放送局のニュース原稿作成や都の広報によるホームページの作成などできる。

(2) インタビューを利用した物語の授業については『海のいのち』でもおこなった。拙稿『「対話」を取り入れた物語の授業―立松和平『海の命』―』（高根大学教育学部国文学会『国語教育論叢』第二十二号2013 P15〜30）

(3) 「王様」記者会見の一部とC2「王様のインタビュー記事の下書き」もあげる。

「王様」記者会見の一部

記者① 王子の誕生日はどうでしたか。

王様① 楽しくなかった。何で静かになったのか分からない。

王様② 王子を喜ばせればいいので、これでいい。

記者② どうしてですか。

王様② 王子の誕生日だから。楽しそうだったからいいのではないか。自然の音も聞けたことだし。

C2「王様のインタビュー記事の下書き」

王子のたん生日、あのじけんがすぎて、取材にいったところ王様は「あのときはもう人々の声が聞こえるかと思ったら何も聞こえないからびっくりしたよ。す

ぐに王子のことがしんばいになった。」と答えています。王子のよろこんでいることがわかってどう思いましたか？「しんばいしていたけど、よろこんでいてよかった。いいたん生日だったのー。」と答えていた。

王様は、ギャオギャオ王子のたん生日、ちんもくとなつてから町の人々は自分たちの町が世界でいちばん静かで平和だと言うことを自まんするようになって「静かでもいいと思ったけど、何があっても静かだからおかしい。」と答えていました。王様は最後に「王子の誕生日はまったくのちんもくになったが、王子がよろこんでくれているからふしぎじゃー。聞いてみたいのー。そうじゃ、王子に聞いてみよう！だから質問はこれで……」と言っていました。

(4) 本授業で使用した新聞は『山陰中央新報』（明治三十四年十一月五日〜）である。身近な地方紙を利用することで、少しでも新聞に興味関心をもたせたかった。

(5) 『山陰中央新報』「顔」を使用。

(6) 新しい国語編集委員会・東京書籍株式会社編集部『新しい国語 五上 教師用指導書 研究編』物語の「設定」「展開」「山場」「結末」を確かめて物語の構成をとらえる学習を示している。

（奥出雲町立馬木小学校教諭）